

ESD を踏まえた環境教育の推進で、子どもたちに主体的な実践力を！

南阿蘇村立久木野小学校

1 「持続可能な社会を構築する担い手を育む教育」としてのESD

本校は、平成26年度に熊本県教育委員会から環境教育研究推進校として指定を受けて以来、様々な教育活動のベースにESDの考え方を位置づけて取り組んでいます。私たちの考える「ESD」とは、『持続可能な社会を構築する担い手を育む教育』です。そのきっかけとなった環境教育研究の一部について紹介します。

2 環境教育における基本的な考えとESDカレンダー

私たちは、指導者が「環境を捉える視点」と「環境教育を通して身に付けさせたい能力や態度」を明確に持ち、「命・人・もの」とつなぐ授業づくりを工夫すれば、児童は環境について、感じ、考え、環境に働き掛ける実践力を身に付けるであろうと信じて次のような視点を持って環境教育に取り組みました。

環境を捉える視点とは、①生命尊重、②豊かな感受性、③人と自然との共生、④循環・有限性、⑤保全の5つです。

次に、環境教育を通して身に付けさせたい能力と態度については、「感じる力」「計画する力」「伝え合う力」や「関わろう」「聞き合おう」「公正に決めよう」「やってみよう」等具体的内容項目を洗い出し、それぞれ発達段階に配慮して系統的にまとめてみました。

この二つの作業から、次の「ESDカレンダー」が生まれました。このESDカレンダーは、既存の各教科・領域等の内容を元に関連の深いものを線でつないで一覧表にした単純なものですが、その全体像を眺めながら、これから取り組もうとする環境学習を具体的に想起すると、そのねらいとするものと系統が明確となり、具体的実践への準備が円滑に進むようになりました。

ESDカレンダーの一例

3 環境学習取組例（2年生・6年生）

もの・命から人へつなぐ実践(2年)

生活科

どきどき わくわくまちたんけん
もっとなかよしまちたんけん
聞いて 聞かせて まちのすてき
〜くぎのいいなまつりをひらこう〜



道徳

〜どうぶつ森のおまつり〜

資料を通して、ふるさとの「自然・文化のよさ」
さらに「人のよさ」もあることに気付いた。

イ 展開前段では、ふるさとの「いいな」には「人のいいな」もあると気付いた。
ア 導入では、たんけんで見つけた命やものの「いいな」ばかりが出された。

「花壇コンクール」

「用水路に行ってみよう！」

高学年部の具体的な実践例

6年生の実践から

「緑の少年団を盛り上げよう」
(春の花植え：総合的な学習の時間)

「用水路に行ってみよう！」
(総合的な学習の時間)

「花壇コンクール」



下級生への指示



「用水路に行ってみよう！」
(総合的な学習の時間)

4 取組の成果と現状

成果として次の2点があります。

- 地域の環境のために何かに取り組んでいるという児童が増加し、環境保全活動につながる実践力が高まってきています。
- ESDの視点を明確にしたことで、各教科、各領域等のつながりを大切にした授業実践が実現し、家庭や地域へ広がりがつつあります。

<現在の取組について>

・昨年度の実践からESDカレンダーを活用した取組を続け、今年度も継続可能なESDカレンダーを作成している。

「命・人・もの」と各教科・領域等のつながり、身に付けさせたい能力や態度を明確にしたこれまでの取組

ESDを視点にした授業スタイルづくり